

農技セ第6515号
平成26年9月16日

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成26年度技術情報について

平成26年度技術情報第3号を公表したので送付します。

平成26年度技術情報第3号

平成26年9月16日
徳 島 県

イネ紋枯病及びいもち病（穂いもち）の発生状況及び防除上の留意点について

県西部における普通期水稻では、8月下旬から紋枯病及びいもち病（穂いもち）の発生が平年に比べて多くなっています。高松地方気象台が9月11日に発表した1か月予報において、天気は数日の周期で変わり、気温、降水量、日照時間ともにほぼ平年並で、前線の影響を受けやすい時期があると見込まれており、発生量の増加が懸念されます。現地においては発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除指導をお願いします。

作物名：普通期水稻（9月中旬以降に収穫するヒノヒカリ等）
病害虫名：紋枯病、いもち病（穂いもち）

1. 発生地域 県下全域（主に県西部）
2. 発生程度 紋枯病：多（前年より多く、平年より多い）
いもち病：多（前年より多く、平年より多い）

3. 発生状況 (1) 紋枯病

県西部における9月上旬（9月11日）の巡回調査では、発生圃場率が90.9%、発病度が27.3で、平年（62.3%、7.1）と比べて発生が多い。また、発病株率が80%を超える圃場もあり、病斑が止葉葉鞘まで達している株が見られた。

(2) いもち病（穂いもち）

県西部における9月上旬（9月11日）の巡回調査では、発生圃場率が81.8%、発病穂率が0.6%、発生程度が20.5で、平年（18.6%、0.1%、4.6）と比べて発生が多い。本年8月は、曇りや雨の日が多く、平年の約50%の日照時間で経過した。

(3) 9月11日発表の1か月予報において、天気は数日の周期で変わり、気温、降水量、日照時間ともにほぼ平年並で、前線の影響を受けやすい時期があると見込まれており、両病害の更なる蔓延が懸念される。

4. 防除上の留意点

(1) 紋枯病

- ①発生状況は圃場によって異なるので、圃場を見回り、病斑が第3葉鞘まで達している場合は、早急に防除を実施する。
- ②防除は県植物防疫指針に基づき、使用基準をよく確認し、収穫時期を勘案の上、適切な剤を使用する(防除薬剤例：バリダシン液剤 500～1,000倍 収穫14日前まで)。

(2) いもち病(穂いもち)

- ①発生状況は圃場によって異なるので、圃場を見回り、穂くび部が罹病し白穂になった株や一次枝梗以上が侵され枯死した株が見られる圃場では、早急に追加防除を実施する。
- ②防除は県植物防疫指針に基づき、使用基準をよく確認し、収穫時期を勘案の上、適切な剤を使用する(防除薬剤例：ブラシンフロアブル 1,000倍 収穫7日前まで)。